

キャラクター名  
紅焔 龍貴 (こうえん たつき)

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ サラマンダー		ワークス	レネゲイドビーイングA	カヴァー	UGNエージェント
	オプション		年齢	不明	性別	女 (人間体)
覚醒	生誕	衝動	闘争	初期侵食率	42 %	
出自	旧き記憶	経験	死と再生	邂逅	忘却	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	37
肉体	5	1	2			8	行動値	3
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	3
精神	1	0	0			1	戦闘移動	8
社会	2	0	0			2	全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	15		射撃	1		RC			交渉		
回避	1		知覚			意志	4		調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	3
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
火竜槍	白兵	10r+13	1	17		混沌なる者の槍+パワースイングLv3+フレイムタンLv1
煉獄火竜槍	白兵	13r+13	1	41		侵食率100%+フルパワーアタックLv4+混沌なる者の槍+パワースイングLv4+フレイムタンLv2

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: UGN幹部	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
触媒	P	N		
霧谷雄吾	P 庇護	N 憐憫		
とあるUGN職員	P 庇護	N 隔意		
朧げな記憶の存在	P 懐旧	N 悔悟		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6    残り財産P: 5

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
ヒューマンズネイバー	1	-	常時	至近	自身	自動	RB	
効果: 衝動判定のダイス+Lv個。侵食率でLvアップしない。侵食率基本値+5する。								
オリジン: アニマル	1	3	マイナ	至近	自身	自動	RB	
効果: そのシーンの間、素手攻撃力+Lv×2。素手を除くアイテムは全て装備使用不可。								
フルパワーアタック	3	4	セットアップ	至近	自身	自動	80	
効果: ラウンド中、攻撃力+Lv×5。行動値0。								
不死身の炎	3	1d10	常時	至近	自身	自動	100	
効果: HP+Lv×10								
パワースイング	3	3	Xジャー	武器	-	自動	-	
効果: 攻撃力Lv×3、判定ダイス-1。素手以外の白兵攻撃にのみ適用								
フレイムタン	1	2	Xジャー	視界	-	白兵	-	
効果: 射程を視界に変更。攻撃力-5+Lv								
コンセプト: キマイラ	2	2	Xジャー	-	-	シンドローム	-	
効果: クリティカル値-Lv (下限値7)								
炎陣	1	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果: カバーリングを行う。行動済みにならず、行動済みでも行える。1メインプロセスに1回。								
竜鱗	3	3	リアクション	至近	自身	自動	-	
効果: 組み合わせ不可。装甲値+Lv×10してダメージを算出。								
衝撃相殺	3	-	常時	至近	自身	自動	リミット	
効果: 受けるダメージ-Lv×5。竜鱗使用メインプロセス中のみ適用。侵食率基本値+4								
	★	-					-	
効果:								
効果:								
効果:								

竜を起源としたレネゲイドビーイング。  
古い時代に竜神様として祀られ、人と共生していた竜。凶悪な存在と戦い死亡し、気付けば現代にレネゲイドビーイングとして再生していた。かつての記憶は断片的なものしか持っていないが、人々と共生していた記憶を実感として持っているために、人には協力的。善なる者を好む。人の扱いは基本的には守護する対象。争いをむやみに広げようとする人間は粛清対象。  
霧谷雄吾を契約主として、UGNに協力している。  
人に加護(Dロイス: 触媒)を与え、一時の力を授けることができるが、かつてに比べると微々たる物である。かつての姿とは違うようだが、一時的に竜の姿となり戦うことができるが消耗が激しいのもあり、その姿を取るのには限定的。何か自分にとって大きな存在であった善だが、そういった者がいたという感覚があるだけで、どんな人が竜があるいは別の生き物だったか思い出せない存在がいる。